



ぐるっとマップ

No.186 池田鉄道の記憶

保存版

マップ作成: NPO法人 ぐるっとネットワーク大町

大正15年から昭和13年まで、池田町には鉄道が走っていました。開業当初は最盛期の池田の製糸業の動脈として機能したものの、時代の波に翻弄され、わずか11年9か月でその役目を終えました。今回のマップでは、今に残る廃線の跡を辿りながら、池田鉄道について紹介します。

池田鉄道の概要

区間: 安曇追分～北池田 7駅6.9km
軌間: 1067mm (幹線鉄道と同規格)
全線単線、全線電化(最後の1年を除く)

最初から「電車」

池田鉄道は、信濃鉄道(現大系線)の安曇追分駅から池田方面に分岐する路線だったため、当時電化されたばかりの信濃鉄道に合わせて、当初から電気動力を使い、電カも信濃鉄道から受電していました。池田鉄道創立に尽力し初代社長も務めた内山昇氏が、信濃鉄道に電気を供給していた安曇電気株式会社の社長だったことも背景にありました。

物資の運搬

池田鉄道には客車のほか貨車が乗り入れており、主に製糸工場が使う石炭や繭が運び込まれる一方で、米や生糸、清酒が運び出され、運行当初は池田町の発展に大きく寄与しました。

苦しい経営

池田鉄道は初年度から赤字に苦しめられました。創業間もない昭和2年に始まった金融恐慌とそれに続く世界恐慌で、輸出に頼っていた製糸業は没落し、町の経済も苦境に立たされました。

花電車(納涼電車)の運行

吾妻座(芝居小屋)前での臨時停車等の営業努力も経営を好転することはできませんでした。

鉄道は大規模輸送には向いていますが、住民の移動手段としては料金面でも利便性でもバスが勝っていました。

白馬自動車との競争に負けていたことも、池田鉄道廃業の原因の一つといわれています。

池田鉄道跡についてのお問い合わせ: 池田町観光協会 0261-62-9197

このマップでは、四季折々の地域の魅力を再発見するために、皆様から情報をいただきながら様々な切り口で紹介してまいります。ぐるっとネットワーク大町事務局: TEL 0261-85-0556 FAX 0261-85-0557
これまでのぐるっとマップはホームページ <http://www.grutta.net> よりダウンロードできます。



1. 安曇追分

現在の安曇追分駅の北側に、車庫とホームがありました。

2. 十日市

駅の跡は残っていません。

3. 会梁

波田見と内鎌の集落があったため、信濃池田に次いで乗降客が多い駅でした。ホームの跡は民家の基礎に利用され残っています。(勝手に立ち入ることはできません)

4. 柏木

会梁村役場に隣接しています。駅の跡は残っていません。

5. 南池田 池田実業補習学校(現池田工業高校)の最寄り駅でした。

ホームの跡は民家の塀の土台に利用され残っています。

6. 信濃池田

町の中に位置し、本社が置かれていました。駅前通りや裏通りの建物から、今も往時の賑わいがしのべられます。本社事務所とホームの跡が残っています。

7. 北池田

終着駅。相対式のホーム跡が残っています。

池田鉄道を巡る出来事

- 大正4(1915)年 信濃鉄道運行開始
- 14(1925)年4月 池田鉄道敷設認可
- 15(1926)年1月 信濃鉄道電化
- 9月 池田鉄道運行開始
- 昭和2(1927)年3月 昭和金融恐慌
- 4(1929)年10月 世界恐慌始まる
- 12(1937)年3月 信濃鉄道の国有化
- 6月 ガソリン導入
- 7月 日華事変、ガソリン統制
- 13(1938)年6月 池田鉄道全廃

小さな橋脚の跡



水路を渡る小さな橋脚跡

橋の北側の東寄りに、かつての橋脚の跡が見られます。



今の安曇追分駅

※このマップは、2017年11月4日付の大系タイムスに掲載されました。
※情報は掲載当時のものです。ご注意下さい。
※個人で楽しんでいただくためのものです。二次利用をされる場合にはご相談下さい。